

癸気揚揚

第8号

短い秋が過ぎ、気がつくとも冬の足音が近づいてきました。朝、私は、王子神谷駅から歩いて学校に向かいますが、吐く息が白くなってくるのを見て、暑い夏も苦手でしたが、寒い冬も嫌だなあ〜と、勝手な感情が頭をめぐっています。

人は、このように、自分本位で生きています。自分にとって有益ではないことは無意識に避けてしまうのは、仕方のないことです。しかし、不本意なことばかりが続くと、自分ばかりがこんな目に合っているのではないかと思ひ込み、幸せではないと感じてしまいます。

特に、今、「いいね！」などの承認欲求にしか満足感を得られない人が増えていると聞くと、「あなたのここがだめ」と言ってくれる本当の親友の存在に気がつかない人も多いのではないかと感じます。

私も高校生の時に、一緒に泣いたり、笑ったりする大切な親友がいました。部活動で苦しい練習を積み重ねても中々勝てず、その原因を、自分自身の事ではなく仲間のせいにして、愚痴ばかりをこぼしていました。そんな時、その親友は、「とにかく、一人で悩んでないで一緒に練習を頑張ろう！そして、チームみんなで勝利を目指そうよ！」と、私を励ましてくれました。

さて、皆さん「ごんぎつね」を読んだことがありますか？いたずら好きな「ゴン」というキツネの生涯をかけて償う姿が描かれています。この作家の新見南吉さんの作品に「デンデンムシノカナシミ」があります。「自分の殻には悲しみがたくさん詰まっている」と、自分ばかりがこんな悲しみを背負っている、自分はなんて不幸だと嘆いたでんでん虫が「もう生きてはいけない」と次々仲間に相談していきます。ところが、相談するすべての相手から、「私も同じ」「私の方がもっと悲しい」「あなたの悲しみなんか悲しみじゃない」など、逆に相談を持ち掛けられ、「悲しみは誰にでもある。私は悲しみを乗り越えていかなきゃ！」と前向きな気持ちを持つことの大切さを知る物語です。

今、SNSの普及から、自分を称賛する人ばかりに心を寄せて、自分を常に中心に考える人が増えています。

しかし、一歩自分の世界から外に出ると、辛い中でも自分の運命と受け止め、文句も愚痴も言わずにしっかりと前を向いて人生を歩んでいる人もたくさんいるはずですよ。

ひょっとしたらこのでんでん虫のように、自分の悲しみがどれほどちっぽけなものだったか気づくことができるかもしれません。

ぜひ、読んでみてください。頑張れ新田生！

